

KT師の重賞本命と見解「秋華賞2021」

今年の秋華賞の舞台。阪神芝 2000m で行われた重賞は 11 レース。

連対馬の半分以上の 13 頭は父か母父米国型。

牝馬で連対した 11 頭のうち 9 頭は父か母父米国型。

牝馬は米国の血がより重要。

今年の前哨戦オークス、ローズ S はいずれも欧州指向の末脚型が有利だったレース。

ここで力を存分に発揮できなかった米国型を狙います。

本命はエイシンヒテン。

父はディープ系のエイシンヒカリ。

母父は米国型のエイシンワシントン。

前走のローズ S はディープ系の血を持つ馬の中でも

欧州指向の強い血統で差し馬が有利。

母父米国型の先行馬エイシンヒテンには厳しい展開。

また、叩き上昇型の馬で今回は叩き 3 戦目。

自身の上昇。前走よりも能力を発揮しやすい舞台で、
ローズ S 組で再先着の可能性は十分。

対抗はソダシ。

オークスは欧州型の差し馬有利。
米国型の先行馬であるソダシには最悪の状況。今回は逆転。
オークス上位組の欧州指向強い血統馬は軽視。

ミスフィガロは母母が米国血統で短距離スピード型のブロードアピール。
母父キンカメは母父(すなわち母母父)が米国型なら、米国の個性を出す血統。

同配合の兄ワグネリアンも、同コース G1 大阪杯で僅差の 3 着。

古馬になってからは最もパフォーマンスが高かったのがこの舞台。
上昇中のディーブ産駒。伸びしろにも期待。

ステラリアは前走で本命にしましたが、
結果的に自身の能力全く出せない追走で展開も不利。
素質秘め、雨降って欧州指向強い馬が恵まれるバイアスになれば。